

メロンの接ぎ木苗生産における養生管理方法

[要約]メロンの接ぎ木作業は晴天の続く日を選び、接ぎ木後、遮光した密閉トンネル内で養生する。2～3日間のポリフィルムのべたがけは湿度・気温の保持と活着促進に効果的で、光反射シートによる遮光は昇温抑制に有効である。

農業総合センター 園芸研究所

成果区分

普及

1. 背景・ねらい

メロンつる割病の発生とともに接ぎ木栽培が増加しているが、購入接ぎ木苗は高価であることから、自家接ぎ木苗の導入が増加している。しかし、その養生管理は煩雑で、技術的に不慣れな生産者も多いために、活着不良や病害の発生により良質な苗の確保が困難となる場合がある。

そこで、良質な接ぎ木苗の安定生産のための養生管理方法を確立する。

2. 成果の内容・特徴

- 1) 接ぎ木日前後に受光量が少ない場合は、接ぎ木苗の活着程度や接ぎ木後7日目の根長、接ぎ木後27日目の苗の生育が著しく劣る(表1)。
- 2) 養生時の密閉トンネル内ポリべたがけはベタがけ内の湿度や気温を高く保ち(図1)、接ぎ木苗の活着と生育を促進する(表2)。
- 3) 養生時に光反射シートや熱線反射フィルムでトンネルを遮光すると、黒寒冷紗で遮光した場合に比べてポリべたがけ内気温が2～3℃低い(図3)。

3. 成果の活用面・留意点

- 1) 光反射シートは87円/m²、熱線反射フィルムは500円/m²である。
- 2) ポリべたがけ期間が長いとべと病などの発病を招くので、2～3日に止める。また、フィルム内面の水滴を適宜除去するなど、過湿による病害の発生には注意する。
- 3) 養生期間中のトンネル内気温は25～28℃を目安に管理する。4～5日目からトンネルの換気を始め、7日程度で養生を完了する。
- 4) 本養生方法は各種接ぎ木方法に適用できる

4. 具体的データ

表1 接ぎ木前後のトンネルへの遮光が接ぎ木苗の活着と生育に及ぼす影響

試験区名	活着程度 ²⁾	根長 ³⁾ (mm)	接ぎ木後27日目の苗の大きさと乾物重 ⁴⁾				
			葉数(枚)	葉長(cm)	葉幅(cm)	茎葉部(mg)	根部(mg)
遮光	1.2	6	2.6	7.6	9.5	487	31
慣行	2.6	27	3.3	8.4	10.8	929	59

注1) 接ぎ木日：2008,10/24、遮光区は接ぎ木日および前後2日の合計5日間、慣行区をさらに黒寒冷紗(遮光率80%)で遮光した。いずれの試験区も養生時にポリベたがけ処理を実施。

2) 接ぎ木後7日目の活着程度：活着(3)、ややしおれ(2)、しおれ(1)、激しいしおれ~枯死(0)

3) 接ぎ木後7日目の1株当たりの根長の合計

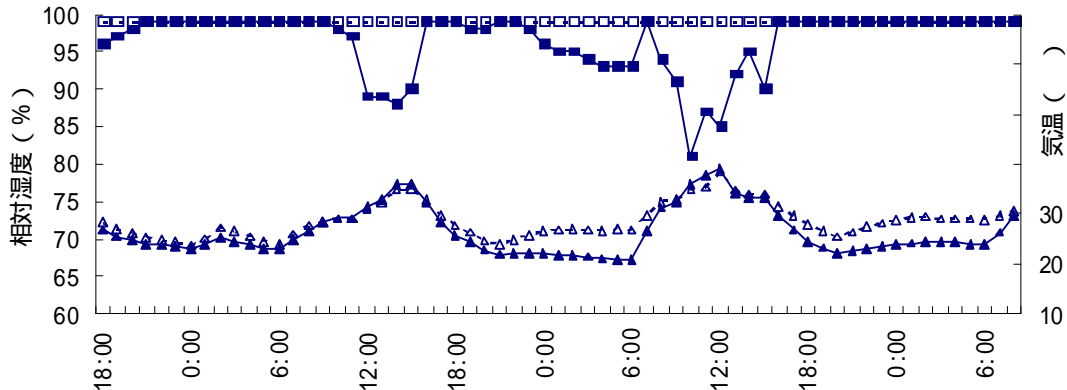


図1 ポリベたがけの有無が接ぎ木苗周辺の湿度と気温に及ぼす影響(2008,10/10~13)
ポリベたがけ無はトンネル内の湿度・気温

--□-- ベたがけ有湿度 —■— ベたがけ無湿度 --△-- ベたがけ有気温 —▲— ベたがけ無気温

表2 養生時密閉トンネル内のポリベたがけの有無が接ぎ木苗の活着と生育に及ぼす影響

試験区名	活着程度 ²⁾	接ぎ木後25日目の苗の大きさと乾物重 ⁴⁾				
		葉数(枚)	葉長(cm)	葉幅(cm)	茎葉部(mg)	根部(mg)
ポリベたがけ有	2.9	3.0	7.6	10.1	1215	57
ポリベたがけ無	2.2	2.6	7.6	10.0	978	58

注1) 接ぎ木日：2008,10/10、ポリベたがけ区は接ぎ木後3日目の朝まで密閉トンネル内ポリベたがけ

2) 接ぎ木後7日目の活着程度：活着(3)、ややしおれ(2)、しおれ(1)、激しいしおれ~枯死(0)

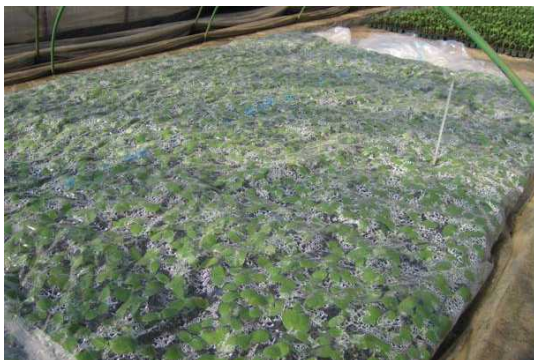


図2 ポリフィルムベたがけの様子

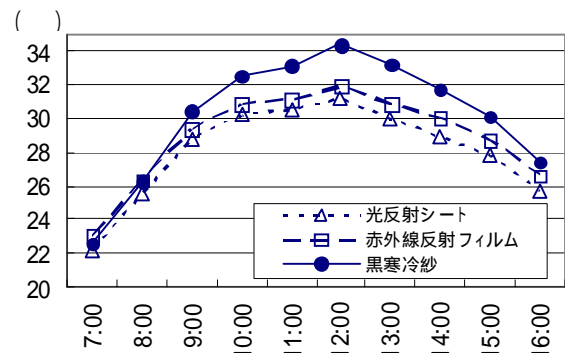


図3 遮光資材の違いが密閉トンネル内のポリベたがけ内気温に及ぼす影響

遮光率はいずれの区も約95%に調整した。
11/19の17時~11/22の16時までの毎時ごとの平均値で、天候はいずれも晴れ

5. 試験課題名・試験期間・担当研究室

メロン「ひたち交3号」の高品質安定生産技術の確立・平成20~23年度・メロングループ